

2. モンゴル国における看護専門職による 継続教育としての新人看護師教育に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

モンゴル国では、看護教育や看護師の不足等に課題があり、2018年10月に保健大臣令 A/439号が発令により看護師の指導者養成研修の開発が指示され、看護師の卒後研修に対する活動が開始されたばかりである。

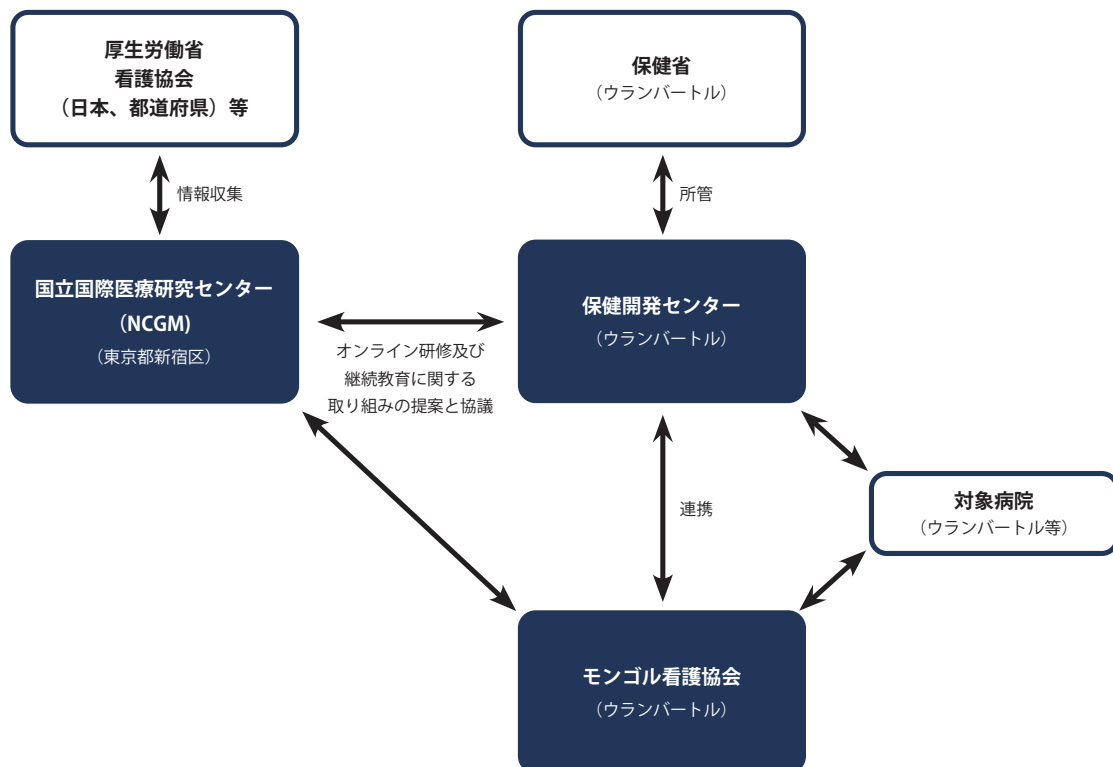
モンゴル国での新人看護師教育の実現のためには、新人看護師教育を含む継続教育の構築とその充実への取り組みを続けている日本の知見から学ぶことに大きな意義がある。

【事業の目的】

日本および国立国際医療研究センター（NCGM）病院における看護師の継続教育に関する知見を学ぶことにより、モンゴル国における継続教育に関する課題解決の一助となり、継続教育活動がより推進されることを目指している。今年度は、特に新人看護師を対象とした教育体制や研修コンテンツに関する理解に主眼を置いた。

【研修目標】

- ・ 日本における看護職に対する継続教育を概観する
- ・ 日本の医療施設（NCGM センター病院）における新人看護師に対する継続教育の実際を学ぶ
- ・ 研修参加者の所属先における継続教育に関する活動を協議する



「モンゴル国における看護専門職による継続教育としての新人看護師教育に関する事業」について、令和2年10月から令和3年2月までの事業報告を行います。

モンゴル国では、看護教育や看護師の不足等に課題があり、2018年10月に保健大臣令 A/439号が発令により看護師の指導者養成研修の開発が指示され、看護師の卒後研修に対する活動が開始されたばかりです。また、2020年は国際看護師協会ならびに世界保健機関により「看護師と助産師の国際年」とされ、看護人材の教育・労働等についてまとめられた State of the World's Nursing 2020 でも、重大な今後の課題として看護師への教育や看護人材の不足をあげています。

看護師が自他ともに専門職として認知されることは、医療の質を向上させ、多職種が連携したチーム医療を提供するために重要であり、新人看護師が看護専門職として社会的責任や基本的態度を習得していくためには、継続教育*としての新人看護師教育の実現が必要です。モンゴル国での新人看護師教育の実現のためには、新人看護師教育を含む継続教育の構築とその充実への取り組みを続けている日本の知見から学ぶことに大きな意義があると考えます。

*尚、ここでは「継続教育」は日本看護協会「継続教育の基準 ver.2」の以下の定義とする。

看護の専門職として常に最善のケアを提供するために必要な知識、技術、態度の向上を促すための学習を支援する活動である。継続教育は、看護基礎教育での学習を基盤とし、体系的に計画された学習や個人が自律的に積み重ねる学習、研究活動を通じた学習など様々な形態をとる学習を支援するように計画されるものである。

本事業の目的は、日本および国立国際医療研究センター（NCGM）病院における看護師の継続教育に関する知見を学ぶことにより、モンゴル国における継続教育に関する課題解決の一助となり、継続教育活動がより推進されることです。今年度は、特に新人看護師を対象とした教育体制や研修コンテンツに関する理解に主眼を置いた事業内容としています。そして、将来的には、看護師の継続教育が強化されることにより、臨床現場における看護ケア・医療の質を改善させる可能性があると考えています。

本事業は、図のように国立国際医療研究センター（NCGM）がモンゴル国保健開発センターやモンゴル看護協会と連携・協力し、対象病院に対して研修を実施しています。

今年度実施した研修の目標は、日本における看護職に対する継続教育を概観し、日本の医療施設の実践例の一例として NCGM センター病院看護部における新人看護師に対する継続教育の実際を学び、それらの知見・学びをもとに、研修参加者の所属先における看護師に対する教育に関する活動を協議することでした。

2020年	10月	11月	12月	1月	2月
オンライン研修実施に向けた関係者間調整 ・ 研修ニーズ確認 ・ 講師打ち合わせ ・ 研修生選定	モンゴル国との研修ニーズおよび研修対象者選定に係る調整（オンライン会議） 講師との研修資料作成に係る打ち合わせ				
オンライン研修プログラム開発 ・ 資料作成 ・ 撮影・録音 ・ 編集	研修資料（PPT/日本語）作成 研修資料 翻訳 研修資料 撮影・録音 研修資料 動画編集 研修資料 修正				
オンライン研修開催 ・ 21名参加 ・ 8時間/1日間	研修生選定 接続テスト 研修実施 筆記試験実施				

2021年2月上旬のオンライン会議システムなどを活用した研修実施を目指し、事業採択後の2020年10月より本格的に準備を開始いたしました。各関係者とは、対象国（モンゴル国）への渡航ができない状態でしたので、メールおよびオンライン会議システムを活用して進めてまいりました。

研修プログラム開発においては、モンゴルの方が新人看護師等の研修実施の際に参考にできるよう、具体例を多く含む内容になるよう、講師

との打ち合わせを重ねました。具体的な研修の方法や指導の様子等については、事業責任者らが研修や会議の現場に参加する、教育を担当する看護師にインタビューするなどして、教材の作成を行いました。教材作成に当たっては、NCGM センター病院看護部より協力を得ました。

教材は、パワーポイントで作成し、日本語からモンゴル語に翻訳のち、モンゴル語音声吹き込み、動画化しました。こうすることで、直接モンゴル語で学んでいただける教材になり、研修時の翻訳時間の削減はもちろん、研修生にとってもスムーズに内容を聞き取ることができる教材になりました。

オンライン研修の開催に際しては、COVID-19 感染予防対策を考慮し、研修参加3病院に会場を設置し、5-7名の少人数の会合となるようにいたしました。複数の会場をオンライン会議システムで繋ぎ、動画配信およびライブディスカッションを行うため、有線LANのある部屋を確保するよう参加病院へ依頼し、接続テストを事前に行い、当日を迎えました。



研修当日は、スライドのように第1・第3病院・感染症センターより研修参加者が接続し、モンゴル保健開発センターやモンゴル看護協会会長もオブザーバー参加されました。

各病院5-7名の参加で、19名へ研修を提供することができました。限られた人数への研修提供ではありましたが、各病院看護部長やモンゴル看護協会会長が参加され、参加病院およびモンゴルの看護師への波及を期待できる参加者層であったと考えています。

また、ある病院では、副院長のオブザーバー参加も得られ、病院としての看護師に対する教育への関心の高さがうかがえました。

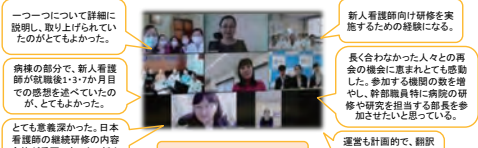
日時: 2021年2月4日 9:00~17:00	
1 日本における看護職に対する継続教育の概要	
2 NCGMセンター病院における看護部院内教育について 1) 看護部の役割 2) 看護部院内教育の概要 3) 看護部教育委員会の活動概要	
3 NCGMセンター病院における集合教育の実際 1) 多重課題・シミュレーション研修 2) 医療安全研修 3) 呼吸管理のポイント研修	
4 NCGMセンター病院における職種での新人看護師教育の実際 (教育体制、教育担当者らのインタビュー等)	
5 NCGMにおけるCOVID-19への対応 1) COVID-19流行時の看護管理 2) 医療者のメンタルヘルス 3) 感染管理認定看護師の役割	
令和2年度は、新人看護師教育を中心に、具体的な取り組み・実践例の共有となるようなプログラム構成とした。 →各病院で実施する際の参考になるポイントの発見につながる	

研修内容は、大きく5テーマとしました。今回の研修では、特に新人看護師教育を中心とし、赤字でお示しているような具体的な取り組み・実践例の共有を多く含めたプログラム構成としました。

オンライン研修 評価(アンケート結果より)

以下、研修生全員が「達成された・概ね達成された/そう思う・概ねそう思う」と回答

- ・所属先での看護師の教育について考える機会になった
- ・研修プログラム構成は適切だった
- ・講義内容は分かりやすかった
- ・この研修で得た知識・経験は役に立つ
- ・自身の期待や学びたいことと合致していた



一つ一つについて詳細に説明し、取り上げられていたのがとてもよかった。

病棟の部分で、新人看護師が就職後1-3-7か月目での感想を述べていたのが、とてもよかった。

とても意義深かった。日本看護師の継続研修の内容全体が重要であった。新人看護師向け研修を実施するための経験になる。

開始時間前に揃っている

新人看護師向け研修を実施するための経験になる。

長く合わなかった人々との再会の機会に恵まれてとても感動した。参加する機関の数を増やし、幹部職員等に病院の研修や研究を担当する院長を参加させたいと思っている。

運営も計画的で、翻訳も事前に行われていたので時間を節約することができた。

研修後のアンケートでは、

- ・所属先での看護師の教育について考える機会になった
- ・研修プログラム構成は適切だった
- ・講義内容は分かりやすかった
- ・この研修で得た知識・経験は役に立つ
- ・自身の期待や学びたいことと合致していた

等の項目で、すべての研修生から5段階評価の上位2段階に当たる「達成された・概ね達成された/そう思う・概ねそう思う」等との回答を得られ、研修に対する満足度の高さを感じました。

自由記載では、具体的に看護職対象の研修や指導方法を紹介したことも好意的な意見が聞け、研修実施の参考になる・経験になったとの意見や、他の職員にも参加させたい等、研修内容の需要の高さを伺えました。教材のモンゴル語翻訳・吹替を行っていたことも、学習効果を挙げられたようでした。

そして、アンケートではありませんが、開始時間前に研修生が揃っており、手元の資料と配信される動画教材を見ながら真剣に聞いている様子は、モンゴルの看護師の学ぶ意欲を強く感じました。

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	<ul style="list-style-type: none"> ①オンライン研修参加者・研修受講者数 20名 ②オンライン研修事後アンケートによる満足度: 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ①オンライン研修受講者が研修で学んだ日本の知見をもとに、院内での継続教育について検討の場をもった施設数: 1施設当たり5回 ②オンライン研修受講者が研修で学んだ日本の知見を参考に、新人看護職員研修の計画を立てた施設数: 1施設当たり5回 	<ul style="list-style-type: none"> ①本研修で学んだ日本の知見を参考に、モンゴル国の各医療施設における院内教育体制が整備される ②本研修で学んだ日本の知見を参考に、モンゴル国における継続教育に関するガイドライン等が策定される
実施後の結果	<ul style="list-style-type: none"> ①オンライン研修参加者・研修受講者数 21名 (研修対象者19名、オブザーバー2名) ②オンライン研修後アンケートによる満足度: 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ①オンライン研修中、NCGMセンター病院で実際に行っている研修について学び、各病院からの参加者間で意見交換、自病院の看護師対象の研修の改善点等が述べられた。:1施設あたり1回 2020年10月開始の事業であり、研修からの経過期間も短いため今後評価していく必要があると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告時点で作成されたガイドラインや取り組みはない。 今回の研修は、モンゴル国における看護師免許更新に必要な単位(1単位)を取得できる研修として、モンゴル国保健開発センターからの承認が得られた。(免許更新には、年間3~5単位の取得が必要)

アウトプット指標は概ね達成しています。一方で、アウトカム指標およびインパクト指標は、事業実施期間が短いこともあり、今後評価していく必要性があると考えています。

研修に対する満足度が高かったこと、本研修がモンゴル国における看護師免許更新に必要な単位を取得できる研修としてモンゴル国保健開発センターの承認を得られたことは、特筆しておきたいと思います。

今年度の相手国への事業インパクト

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)
- 遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生: 3病院合計19名(各病院 看護師長含む)
- オブザーバー参加(終日): モンゴル看護協会会長1名、研修生所属病院副院長1名
- オブザーバー参加(一部): モンゴル国保健開発センター 部長代理

- 期待される事業の裨益人口(延べ数)
- 研修生の所属する病院において看護師に対する研修プログラムが改善される。
 - 一 研修生所属病院の看護師総数
- 将来的に、モンゴル看護協会や保健開発センター等によりモンゴル国において看護師に対する継続教育の充実が図られる。
 - 一 モンゴル国の看護師総数: 約12万人(2018*)

* [https://www.who.int/data/gho/data/indicators/indicator-details/GHO/nursing-personnel-\(number\)](https://www.who.int/data/gho/data/indicators/indicator-details/GHO/nursing-personnel-(number))

今年度の事業では、モンゴル首都ウランバートル市内の中核3病院の看護部長を含む看護師19名に研修を提供することができ、オブザーバーとしてモンゴル看護協会会長や研修生所属病院の副院長各1名も参加いただきました。

モンゴル看護協会会長にも参加いただけたことで、モンゴルにおける看護師の育成に重要な役割を担っていくであろう、モンゴル看護協会にも日本における看護職の継続教育に関する取り組みを紹介する機会になったと考えられます。

今年度の研修対象病院において、看護部長を筆頭に複数の看護師長・看護マネージャー等の看護師が参加したことにより、対象病院において看護師に対する研修プログラムが改善されることを期待します。また、モンゴル看護協会や保健開発センター等による看護師に対する継続教育の充実が図られることも期待しています。

これまでの成果

NCGMセンター病院看護部における看護師に対する院内教育について、動画等を変えた具体的紹介・説明+意見交換

- 自身の所属病院での看護師育成について具体的に参考になる点を見出し、積極的に協議する様子が見られた。
- 認定・専門看護師制度に関しての質問も多く、看護師がより高い専門性を身に付け、キャリアアップしていくことへの関心の高さとその必要性を認識している様子が窺えた。
- 研修の最後には、参加者全員で看護師の育成にさらに取り組んでいく決意が示された。

<日本における看護職に対する継続教育の知見が共有され、モンゴルでの取り組みに活用される可能性がある>

今後の課題

新人看護師教育のみならず、認定・専門看護師の育成や看護協会など、医療施設以外の看護師育成に関係する機関における取り組みや役割を含めた研修プログラムへ拡充し、研修対象を拡大していく必要がある。

モンゴル国同様に看護専門職による継続教育に取り組んでいる他国への拡大について検討の余地があると考え、候補国を検討しているが、対象国の決定にはさらに時間を要する状況にある。

本事業は、令和2年度2次募集採択事業のため、この5カ月程度での成果ではあるが、NCGMセンター病院看護部における看護師に対する院内教育については、看護部の体制、教育委員会の体制とその役割、院内の集合研修や病棟での指導の実際などを、動画を交えて具体的に紹介・説明したことにより、研修での意見交換では、「自病院での看護師対象の研修にも、もっとシミュレーション等を入れるべきだと思った」、「自病院でも看護師の離職率が課題であり対応を考えているところであり、日本の対策が参考になった」等の意見が聞かれ、自身の所属病院での看護師育成について具体的に参考になる点を見出し、積極的に協議する様子が見られました。

また、質疑応答では、認定・専門看護師制度に関しての質問も多く、看護師がより高い専門性を身に付け、キャリアアップしていくことへの関心の高さとその必要性を認識している様子が伺えました。そして、研修の最後には、参加者全員で、それぞれの病院、それぞれの国で看護師の育成にさらに取り組んでいく決意が示されました。

今後の課題は、今回の研修参加者からのフィードバックおよび、研修実施に際し協力を得たモンゴル看護協会長からの要望より、新人看護師教育のみならず、認定・専門看護師の育成や看護協会など、医療施設以外の看護師育成に関係する機関における取り組みや役割を含めた研修プログラムへ拡充し、研修対象を拡大していく必要があると考えています。

また、モンゴル国同様に看護専門職による継続教育に取り組んでいる他国への拡大について検討の余地があると考え、候補国を検討しているが、対象国の決定にはさらに時間を要する状況にあります。

将来の事業計画

事業のインパクト(医療技術移転の定着、持続的な医療機器・医薬品調達)につながるよう
に事業の履進を具体的に描いてください(自由形式)。

看護職に対する継続教育に関する研修事業の実施

- モンゴル国において看護師に対する継続教育の理解促進
- モンゴル国における看護師に対する継続教育システムが強化・拡充
(ガイドラインや政策に反映)
- モンゴル国の看護師の能力強化
- モンゴル国の医療・看護サービスの質が向上する

※他国でも同様に展開できる可能性がある

医療技術定着の考え方の例

研修者への研修→研修者からメンター・ガイドライン策定→国家政策化→技能を他国に移植(研修者への継続的な研修実施)→技能により質の高い医療を受けられる人が増える→対象国の公衆衛生・医療水準の向上に貢献する。

将来的に期待する事業のインパクトとしては、看護職に対する継続教育に関連する研修事業を強化しながら実施していくことにより、対象国において看護職に対する継続教育の理解が促進され、継続教育システム強化・拡充に繋がることです。

そして、継続教育が実施されていることで看護職の能力が持続的に強化され、対象国内で提供される医療・看護サービスの質向上に寄与することです。